

## あばたけ農園

私の出身は京都で、大阪の会社で十二年間勤務しました。建設現場の施工管理をしていました。

会社を退社した後、平成十八年に富士宮に来ました。そして有機栽培農家で二年間研修した後に、新規就農しました。

現在は外神、馬見塚、青木で五カ所の畑をお借りして、露地野菜を栽培しております。

なぜ会社をやめて、有機農業を始めたのかと申しますと、食品の安全に関する書物を読む機会があり、人の健康と食べ物の密接な関係に気が付いたことです。自然に関わる仕事をしてみたいという思いもありました。

富士宮で農業研修をしようと思ったのは、研修先の畑で見た富士山の眺めがとても素晴らしいからです。この素晴らしい



筆者 畑で

自然環境の中で農業ができることに感謝しております。  
(2015年1月記)

## あばたけ農園 阿部 正長

就農：平成19年4月 畑の場所：富士宮市 外神、馬見塚、青木

栽培面積：畑70a 栽培作物数：40種類

主力作物：葉物、カブ、人参など

連絡先：[www.facebook.com/abatakeorganicfarm/](http://www.facebook.com/abatakeorganicfarm/)



### 「なぜ無農薬・無化学肥料なのか？」

このコラムの題目。とっかかりが難しいですが。

まず、①消費者の観点から見えます。無農薬・無化学肥料（以降有機と呼びます）を選ぶ理由として、日本での第一の理由は、自分や家族の健康のためです。一方EUでは、自然保護・環境を守るためです。②次に生産者側から見た理由ですが、自分自身が農薬に触れたくない。その延長に生きがい、やりがい、田舎暮らしがしたいなどの理由となります。

次に、③自然側（動物、植物、微生物）からみた理由ですが、まず農薬には、殺虫剤、殺菌剤、除草剤があります。すべての薬剤は、生き物にとっては、悪影響があり、例えば、殺虫剤であれば神経阻害物質を体内に吸収させたりします。それらは一般的に言う害虫のみならず、益虫やただの虫すべてに悪影響をし、個体数の減少となります。昔いた動植物が絶滅したり絶滅危惧種になる要因の一つとなります。化学肥料のなかにも、殺菌効果の高いものや土を硬くしてしまい、結果水害を招きやすくなるなど、自然を痛めつける結果となります。

どちらにしろ、人間の営みは自然をないがしろにしては、ありえません。自然は、大きなサイクルでできていて、非常に微小な土壌微生物から海にいるシロナガスクジラまですべてがつながっています。何かかけては、世界は成り立たないものです。大きな話になってしまいましたが、無農薬無化学肥料は、それらを守るための一手法です。最後に、④日本の農業の未来から見てですが、新規就農希望者の65%が有機農家に興味があるといっています。減り続ける農家戸数を増やすためにも、興味のある農法で就農することを後押しすることは必要です。

また約50%が大規模化できない農地である日本の国土では、欧米のように販売単価をさげるには限界があるため、価格と量で勝負をせず、価値観を売りにする有機が未来の日本の農業を支えるでしょう！

(なごみ農園 宮田雅和)